

Mr. サトーのインド通信

クリケットとは？

夏休みも終わり、そろそろ秋の到来を感じさせる今日この頃。いかがお過ごしでしょうか？
ここインドではチェンナイ周辺でも気温30～33°、バンガロール周辺では25～27°とインドにしては大分涼しく（出発前の日本よりも過ごしやすいです）バンガロールでは夜、早朝などは長袖着用です。

今回は全日程新石種発掘の旅。の為、現状ここに書けることがない状態です。何点か独占もしくは何社かで共同開発を考えている石種もありますので、そのうち皆様のもとにお届けできれば幸いです。
新工場の方も、石は確保できたがローカル向けに許可が3週間おらない・・・、確保した石が届けられたのと違う・・・（丁場でのすり替え）等、立ち上げ時の困難を抱えつつも生産を進めている状況です。
軌道に乗るまでが色々難しいところで、納期面等でご不便をおかけするかと思いますが、見守りながら発注をいただける方々を多数募集中でございます。納期取れる方、中国以外の発注先お考えの方どうぞよろしくお願いいたします。

詳細等は弊社担当まで。

さてそれではお待ちかねの **MR.オカザキ** による息抜きコーナー。
今回はこれがあるから他のスポーツに人が集まらず、オリンピック選手が育たないとまで言われる、インドの国民的スポーツクリケットの紹介です。（収入が抜群に良いらしいです）



↑インドでは空き地があれば、そこはみんなのクリケットグラウンド・・・

お世話になっております。オカザキです。

突然ですが皆さんはインドで一番何が「アツい」か、ご存知でしょうか。気温も然ることながら、全インド国民を熱狂させることが出来るのがクリケットというスポーツです。

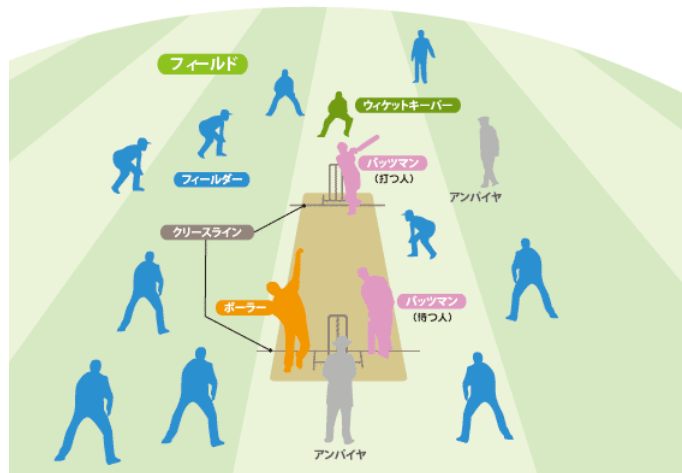
クリケットとは言わば野球の親戚のようなスポーツで、インドで圧倒的な人気を誇っています。今まで出会ったインド人でクリケットを観ないという人を聞いたことがありません。今回はそんな国民的スポーツ、クリケットを特集したいと思います。

クリケットは元々イギリスが発祥とされ、17世紀ごろインドや南アフリカなどの各植民地を始め、世界各国に広まりました。現在100以上の国と地域で愛され、競技人口はなんとサッカーに次いで世界第2位とまで言われています。



ルールは基本的に11人対11人で行い、まずコイントスで先攻と後攻を決め、守備側が守備位置につき、野球のバッターに当たるバッツマン・ストライカー（第一打者）、ノンストライカー（第二打者）の2人がフィールドに立ったら試合開始です。第一打者はフィールド中央にある長方形のエリアの両端に立ちます。ピッチャーに当たるボウラーが片端にいるので第二打者はそばに立つことになります。

バッツマンが定位置に立ち、試合が始まったら、ボウラーがバッツマンに向けてボールを投げます。ボウラーの投球数も一人6球までと決まっています、6球投げたら次の人と交代します。一度投げ終わった人でも誰かと交代した後なら再び投げるすることができます。バッツマンが立っている長方形のエリア両端にはウィケットと呼ばれる3本の棒が立っており、バッツマンが一番優先することは実はボールを打つことではなくて、バッツマン側に立っているウィケットをボウラーに倒されないように防ぐことです。



このウィケットにボールが当たり、倒されるとバッツマンはアウトになります。なので、野球と違い、ウィケットが倒されない限りは空振りは何回してもOKです。ボールを打った場合は、第一、第二打者共に向かいのウィケットめがけて走ります。それぞれが反対側のウィケットに到達すればこれで1点。そのまま往復すれば2点入ります。ボールの返球前にウィケットに到達できなかったり、ノーバウンド捕球されるとアウトになります。ノーグローブなので捕殺は一種の花形プレー。アウトになったバッツマンは次のバッツマンと交代となります。1チーム11人なので、10アウトでバッツマンにパートナーがいなくなり、攻守交代となります。勿論野球というホームラン（ノーバウンドでフィールド外）、エンタイトルル2ベース（ゴロでフィールド外）もあり、それぞれ4点、6点です。



野球と違い三振なしで、攻守交代に10アウト必要なので1イニングがなかなか終わらず、国際試合で行われるテストマッチは終了まで4～5日かかります。時間がかかるスポーツなので試合途中にティータイムやランチタイムが設けられています。さすが紳士の国イギリス。クリケットの熟練者は心も真の紳士である事が求められます。

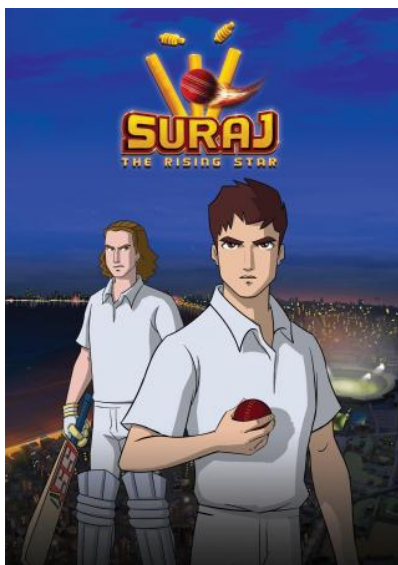
2008年にはインディアン・プレミアリーグと呼ばれる国内リーグが発足し、リーグ戦はプレーオフにより

優勝チームが決まります。弊社のインド協力工場があるチェンナイのチーム、チェンナイスーパーキングスは優勝と準優勝を2回ずつしており、確固たる地位を築いています。プレーオフ進出の2チームにはチャンピオンズリーグ・トゥエンティ20(インド、オーストラリア、南アフリカのクリケット協会が共催、クリケットのワールドカップ)の出場権が与えられます。また、ワールドカップも4年に1度開催されており、前回の2011年大会では14カ国が出場しインド代表が見事優勝に輝いています。



←インド代表チームのキャプテン、マヘンドラ・シン・ドニー選手。名実共にインドのスーパースター。最新の全スポーツ選手の長者番付ではF1のフェルナンド・アロンソに次ぎ22位。

また前述したようにクリケットは国民的スポーツですので、クリケットを題材にした作品も数多くあります。中でも**インド版巨人の星、スーラジ ザ・ライジングスター**が大人気です。このアニメは巨人の星の出版元である講談社が筆頭となり、現地アニメ会社らと共同制作し2012年放送されました。プロデューサーなど制作スタッフは殆ど日本人で構成され、劇中にはスポンサーである日本企業や商品を登場させて、経済効果も期待されています。全26話で2013年に終了しましたがすぐに再放送され、第2シリーズ以降の展開も検討されているようです。



(C)梶原一騎・川崎のぼる/講談社・ライジングスター製作委員会

↑あの有名なギフスも健在

如何でしたでしょうか。日本ではかなりマイナーなスポーツですが、インドではどれほどの人気かご理解頂けたかと思います。

これからも面白そうな話題を提供できればと思いますので、箸休め程度にお楽しみ頂けると幸いです。以上、オカザキでした。

↓ハイテラバッドの飛行場にバッティングセンターがあったので挑戦してみましたが、なかなか難しい…。



2014/09/01 SATO